

「掛け軸ふりけん」に関する質問および回答

【質問1】

下図の写真のような持ち方はOKか？



(表側から見た写真)

親指の根本にけんを掛けている



(裏側から見た写真)

親指には触れていない

【回答1】

掛け軸の持ち方の基本は「大皿皿胴下を人差し指の親指側の側面に掛ける」です。手の大きさの個人差を考慮し、掛けたけんの大皿が人差し指からはみ出してもよいという意味で「けんを掛ける位置は、人差し指の先端から親指の付け根の間であればどの位置でもよい」と表現していますが、写真の持ち方では、そもそも人差し指に掛けることが前提となっていないため認められません。

【質問2】

指はどこまでまげて（湾曲して）よいか

【回答2】

掛軸ふりけんにおいては、指をまっすぐのばすことが前提です。ただし指をまっすぐにのばした状態というのは、指に力が入った状態です。この状態で指から力をぬいてリラックスさせると、指が自然に湾曲します。ここまでをOKとしています。

審判は、選手が指をむやみに湾曲させることで、不安定な「けん」を安定させたり固定させたりするなど、アドバンテージを得たと判断した場合は失敗と判定します。すべての技に言えますが、誰が見ても成功で文句のつけようの無い技を目指して下さい。